

会議録（要点記録）

会議名称	令和4年度 第3回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会		
開催日時	令和4年10月5日（水）14:00～15:25		
開催場所	ZOOM を使用し、オンラインで開催		
出席者等	委員：鈴木委員、東郷委員、杉山委員、藤原委員、小椋委員（欠席） その他：地域生活支援センター そら職員1名 事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主任、相談支援係主事		
傍聴の可否	不可	傍聴者数	—
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 長期入院患者調査の実施状況について (2) 各事業所から情報共有・意見交換 (3) 今後のスケジュールについて 次回日程 第4回 令和5年1月11日（水）14時～ (4) その他 3 閉会		
会議結果	1 開会 2 議題 (1) 長期入院患者調査の実施状況について 【市自立生活支援課より】 協議会で退院促進として3名ピックアップされているが、一部の方について一定の対応を行ったため報告する。 ●整理番号31-1の方について 9月に訪問して面談を行う予定だったが、対象者が体調不良により他の病院で治療が必要となった。 治療後9月22日に再度元の入院先へ戻ったが、治療時は精神疾患関連の服薬を止めていたため、精神状況が大幅に不安定となっている。 そのため、面談については当面延期してほしいとの連絡があった。 （出席者より質問、意見） 特になし。 ●整理番号6-1の方について 新型コロナウイルス感染症の影響がなくなり、10月3日に面談してきた。49歳男性。アンケートには「神経症」と書かれていたが、めまいを主症状とする「前庭神経炎」と「てんかん性めまい」と「うつ病」がある方。小金井市内の無料低額宿泊所におり、住民登録を行った。その後そこから飛び出し青梅市内にいたところを救急搬送された。その後青梅市で生活保護受給となり入院。5年間入院しているとのこ		

と。職歴あり。めまいの原因が不明で治療がなく、心因性の可能性も否定できない。車いすを足で漕いで移動する。部屋探してハードルが上がるのではないかと考える。今も歩くりハビリをしているが身体障害者手帳を取得する対象とはならないため、障害福祉サービスの利用ができない。本人はいずれ自活し、仕事をして自分の力で生活したい、一般人になりたいと発言していた。しかし、とりあえずは退院したいが、車いすの生活が想像できない。5人兄弟だが誰も連絡が取れないため家族の支援は期待できない。意思是っかりしており、発言内容もしっかりしている。以上から時間はかかるが支援していけば一定成果が出るのではないかと感じた。

なお、生活保護実施自治体が他市であり小金井市にゆかりがない。転居の際は自治体間の移管手続等が発生し、結果転居先の選定に影響が出る可能性がある。

(出席者より質問、意見)

【小金井市権利擁護センター】

退院先の希望はあるのか。まったく歩けないのか。

【市自立生活支援課】

病院関係者も聞いていない。調査時も話題に出せなかった。次の段階で確認する。また、立ち上がれるが、歩けない。病院ということもありすべて「見守り支援」とのこと。本当に歩けないのかは確認していない。

【小金井市権利擁護センター】

それを踏まえて、居宅になるのか施設になるのか、車いすなのかで変わってくる。病院にいる際にリハビリでできるだけ機能向上を行うべきと考える。実施責任の移管も困難であることは理解できる。

【市自立生活支援課】

移管先の自治体に転居するのに何かしらの理由がないと疑義を持たれることがあり、難しい部分はある。

【小金井市障害者就労支援センター】

なぜ車いすになったか。

【市自立生活支援課】

他科受診もしたが原因不明で、精神的な気質から来ていると考える。うつ病がある。その後回復して歩行器、杖利用になったが、再び車いすに戻り5年たつ。自宅で車いすを使ったことはないとのこと。

【小金井市障害者就労支援センター】

そのような方を受け入れる施設が小金井市内にないので、他市の受け入れ可能な施設を探すなどの必要があるのではないかと。

【小金井市障害者地域自立生活支援センター】

障害福祉で車いすの支給は受けているか。

【市自立生活支援課】

身体障害者手帳を取得できる段階ではないため、補装具の車いす、手すり等の支給はできない。今の車いすは病院のレンタルで利用している。累積金で車いすを自費購入すると病院関係者が発言していたが定かではない。

【小金井市障害者地域自立生活支援センター】

車いす対応のグループホームを探すこととなるが、本当に少ない。把握しているところでも市外に3か所くらい。そこでいきなり暮らしてください、というのも難しいと思う。ただ、グループホームの入居は移管の手続きなどは発生しないので検討してもいいと思う。いずれにしろ本人の希望を丁寧に精査する必要があると思う。

【福祉総合相談窓口】

車いすを使用している理由は病院の都合か。歩けるのか。

【市自立生活支援課】

詳しく確認していないが、以前の施設か病院の都合で歩行器が使えず、杖を利用していた時期もあったが最終的に車いすに落ち着いた、という経過である。実際に歩けるかは不明である。

【福祉総合相談窓口】

状況から小金井市に住むことはないと思うが、公営住宅などに住んでから状況が変わると思われる。

【小金井市地域生活支援センターそら】

無料低額宿泊所を出たということで、集団生活が好きではないのではないか。グループホームと仮定すると車いす対応の場所は市内にない。そのような大変大きな風呂や廊下を作らないといけない。地方に目を向けると場所があるかもしれない。また、いきなり働くことは難しく、日中の活動の場がないといけない。地方に行くと送迎付きの作業所などもあり、次の生活の枠組みが作りやすいと思う。ただ本人の希望もあり、希望が高すぎる場合は支援者側と調整する必要があると思う。

【市自立生活支援課】

車いす対応のグループホームが市内にないというが、理由はあるか。

【小金井市地域生活支援センターそら】

正確に言えば市内に一か所対応できそうなところはあるが、満室である。一般的にグループホームは一軒家を借り上げる、アパートを借り上げる、マンションの一室を借りるなどがほとんどである。そのような場合は大体断られると思う。なんでないのか、と言われればおそらく運営的な面を含め、精神の方を受け入れることを想定するとき車いす利用を想定してないからではないか。

【小金井市障害者地域自立生活支援センター】

法人内に重度身体障害者用グループホームがあるが、知的、精神の方と違う。物理的対応、バリアフリーなど。そのため、そもそも身体障

害者用グループホームが少ない理由だと思う。リフトやクレーンが必要となる。例えば入浴などもほぼ全介助となる。区分が5か6でないと採算がとれない。であるから一軒家をかりて運営することが難しいのだと思う。

【小金井市障害者就労支援センター】

小金井市は坂が多く住みづらい、ということを知ったことがある。サービスも他市に比べると弱いと言われている。

【市自立生活支援課】

具体的にはどこが弱いのか。サービス支給量が少ないのか。資源が少ないのか。

【小金井市障害者就労支援センター】

サービスを使いづらい、支給が通りづらいと言われている。レンタル用品がいっぱいあるとか手帳がなくても利用できるサービスが使えるなどがないと聞いている。

【市自立生活支援課】

他市と比べ独自事業がないということか。

【小金井市障害者就労支援センター】

そういうことである。

【市自立生活支援課】

他市と比べ厳しくしているつもりはないのだが、もし違いがあるのなら今後の参考にしたい。

質問の趣旨として今年度差別解消条例を改正したことを機に、合理的な配慮を提供する事業所等への補助事業を開始したので、知的、精神の方をメインとしているところが車いすでも入れるように改修するのであれば、補助金の支給を案内したいと考えている。

●その他の協議会で対象となっていない長期入院者の報告について知的障がいのある地区担当員が面談をしてきたので報告する。

50歳男性、愛の手帳4度。他市で生活保護を受給している。過去に「てんかん」を理由として精神保健福祉手帳2級を所持していたが現在は有効期限が切れている。実家が小金井市、両親、兄の家庭で母は既に死亡、父は他市の介護施設に入居、兄は過去の経過から支援を拒否している。平成29年にお祭りで第三者に暴力行為を起こし、措置入院、その後生活保護法の救護施設に入所したが、そこでも刃物の大量収集を行い再度精神科に入院となり現在に至る。入院中も問題行動が見られ、現在も外出制限、院内でも看護師が付くなどの対応となっている。このような状況だが、病院から知的障害に起因する気持ちの伝え方が問題となる方なので、治療することがないため次の居所（施設など）を探してほしいとの依頼を受けている。9月に本人、病院関係者を交えカンファレンスを行った。それを踏まえ現在障害福祉サービスの利用のための手続きを行っている。ただし、過去の問題行動を

踏まえ受け入れ先があるか懸念している。また、本人も23区に住みたい、一人暮らしをしたいなど希望が強く現実と乖離しているところも懸念事項である。

(出席者より質問、意見)

【小金井市障害者地域自立生活支援センター】

暴力行為は知的障がいから来ることか。

【市自立生活支援課】

詳細は不明だが衝動的ではなく、むかつくことがあったからやったと言っている。そしてそのことで自分が悪いとは思っていないとの発言があった。

【小金井市障害者地域自立生活支援センター】

問題行動を繰り返すのか否かがポイントだと思うが。

【市自立生活支援課】

ルールを決めれば対応できると病院関係者は言っていたが、外出を制限するとか誰かがつきっきりでつくなどが必要と言っていた。正直市としては次の居所が見つかるか苦悩している。

【小金井市障害者地域自立生活支援センター】

グループホームだとルールがあるがそれを守れるかが大事である。ただ、行動を繰り返していくなら難しいのではないか。

【福祉総合相談窓口】

問題行動が知的によるものなのか人格的なものなのかが大事だと思う。

【小金井市権利擁護センター】

愛の手帳4度の方はいろいろな方がいらっしゃる。病院の方が一定のルールを決める、ポイントをできるだけたくさん上げながらいろいろな方の意見を聞いてルールを作り本人ができるか考えていくしかないのではないか。50歳ということだが、過去の問題行動についても調べていくとわかることもあるのではないか。

【市自立生活支援課】

過去には兄にいろいろと問題行動をしていたが、兄が居場所をわからなくするなどの対応をしたため第三者に行動が向けられたのではないかと推測している。

【小金井市地域生活支援センターそら】

本人は退院したいのか。

【市自立生活支援課】

退院して23区へ転居したいという思いが強いようだ。

【小金井市地域生活支援センターそら】

知的障がいの方なので感情的になり交渉は難しい。しかし「退院支援」というカードで交渉することは可能だと思う。もし受け入れてくれるグループホームが見つかったら「ここしかない」と言って交渉するこ

とは可能だと思う。

【小金井市障害者就労支援センター】

病院内でプログラムなど受けているのか。

【市自立生活支援課】

最近ようやく週に1回作業をしているだけでその他は自由に過ごしている。やりたがらないことはさせていないようである。

【小金井市障害者就労支援センター】

退院したいなら根幹的なルールを守ることが入っていかないと難しいのではないかと。何かしらのアプローチが必要である。

(2) 各事業所から情報共有・意見交換

【小金井市障害者就労支援センター】

10月15日に年1回行っている学習会「豊かな社会生活のための講座～給与明細書の味方と確認のポイントを知ろう～」を行う。税理士がくる。現在14名参加予定。また15周年イベントとして、記念講演会をする。題名は「親亡き後の制度と暮らしを考える。」として市民向けに行う。オンデマンド配信も行う。期間としては12月1日から16日まで。参加の申し込みを11月1日から24日まで受け付ける。市報にも掲載する。チラシも関係機関に郵送で配布する。

また1件相談したいことがあり、イベントをやる中で市内の事業所の情報をまとめて開示しようと思っている。相談先リストをまとめているうちに、小金井市内では自立生活援助事業を行っていることがないことがわかったが、来年度小金井市地域生活支援センターそらが行うと聞いたがそれを確認してほしいのと、行うのであれば三障害対応可能なのか確認したい。

【小金井市地域生活支援センターそら】

自立生活援助事業を行うには資格要件としてサービス管理責任者がいないとできない。去年から申し込んでいるがだれも資格を持っていないため、ことごとく落とされていてできない。今年も無理なので来年もやらない。平成29年から地域定着支援をスタートし、その後に地域移行支援を開始している。地域定着支援は24時間365日対応となる。その中の緊急時対応は契約をした利用者から「助けて」というサインが出て、その内容が障害特性に起因して必要であると市が判断した案件に対して個別に対応するものである。対して自立生活援助は、長期入院をされていた方が、いきなり地域に戻ってきたとしてもかなり不安定な状態であり、何が緊急事態かも理解できない可能性もあるため、職員の方から利用者に積極介入してサービスを提供するものである。今地域定着支援の契約者数は14名くらいである。以前から小金井市地域生活支援センターそらが計画相談でサポートしている精神障がい者の方以外は対象としていない。他の事業者が計画相談をされている方を地域定着だけ当センターで担うような支援は、24時間3

65日体制ということもあり、また普段の様子もよくわからない中での支援となるためお断りしている。

また、近況として大きく何かということはないが、交流室の体制強化を図るべく職員を1名新たに採用したが、今後も更に1名採用しようとしている。尚、コロナウイルス感染症が下降気味ということがあり、10月から交流室のサービス時間を延長している。でもまだまだコロナウイルス感染症の影響は感じている。自身の感染の恐れも含め慎重に、話し合いながら事業運営をしている。来月から小椋委員が復帰する。

【小金井市権利擁護センター】

講演会のお知らせがある。11月29日（火）10時～12時 「成年後見制度と市民啓発講演」を行う。任意後見制度の概要、注意事項、公証役場、公証人の概要について。今回は基礎編で来年が応用編を予定している。11月1日の市報でお知らせする。午後は行政書士の個別相談を予定している。権利擁護事業の申し込みについては地区別に担当がいるが、中町の人申し込みが集中しているため適宜担当を振り分けている。

【福祉総合相談窓口】

先月、ひきこもりの巡回相談を実施した。精神疾患がある方、利用を拒否しているかたの支援を行っているがなかなか難しい場面もある。ギャンブル依存症の方が多く、そうした方への支援方法について教えていただけるとありがたい。

前回相談した方について、アパートを強制退去となった。今次の行き先を探している。

【市自立生活支援課】

池袋周辺に支援できる機関がある。詳細は個別に対応する。

【小金井市障害者地域自立生活支援センター】

9月21日、高次脳機能障害の講演会を開催した。参加者は30名弱。来年の2月か3月に難病の方の講演会を予定している。音楽療法、こころの相談窓口を行っている。聞きたいことがあり、利用者が支援者側に攻撃してくる場合への対応について対応方法はあれば教えてもらいたい。

【小金井市地域生活支援センターそら】

脅迫めいたこともあるが、個別性が高いためこれが正解というのではないかと思う。事例検討などが効果的ではないか。地域移行の話があったが、全体把握するには630調査のデータベースを見るしかない。最新は2020年の6月のものである。小金井市内であれば225名が入院している。うち60名が小金井市内の病院に入院している。割合としては高齢者が多い。実際にどの病院に何名、年齢がいくつの方かというデータを市が持っていると思う。今後どこかで共有できない

	<p>かと思う。65歳以上の方については介護度が高く難しいというが、トライできるところはトライしたい。</p> <p>【市自立生活支援課】</p> <p>共有できる部分があると思うので、準備する。</p> <p>また11月24日の全体会について、退院促進以外に聞きたいことがあれば次第に盛り込むので連絡ほしい。</p> <p>12月3日に障害者週間のスペシャルイベントがある。12月中旬に障害者計画のアンケート調査を実施する。事業所向けにも送付するので協力願う。</p> <p>(3) 今後のスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会 第4回 令和5年1月11日 14時～ ・全体会 第4回 令和4年11月24日 14時～ <p>(4) その他</p> <p>なし。</p> <p>3 閉会</p>
提出資料	なし